

編集者O そうですね。新聞のテレビ欄を見て、「女性弁護士」とか「女医」とわざわざ「女」と付くのが気になります。男性に対してはそういう風に表現しないでですね。

編集者S 他にも、マスコミの報道は、男性のタレントの浮気報道に比べると、女性のタレントの場合は途端に休業に追い込むほどのバッシングをされるように感じます。「女性＝貞淑であれ」という考えが見え隠れしているように思います。

編集者C 女性に厳しい傾向は、子どもが被害者となるような事件の報道を見ても同様な気がします。虐待やネグレクト、貧困による餓死などの報道も、母親である女性が批判されやすいように感じますし、こうした報道では父親の話はほとんど出てこないですね。母親が子どもの世話をすべきという考えからきているのではないのでしょうか。



編集者O 最近は働いている女性が多くなっているのに、母親が仕事をしている場合にはさらに批判が強くなることもあると感じます。

編集者H マスコミの作り手にジェンダー（社会的性差）に敏感な人が増えれば、報道の仕方もずいぶん変わるのではないかなと思います。

その他のメディアでは？

編集者Y 銀行などで目にする防犯ポスターの犯人像はほとんどが男性として描かれていますよね。これも犯罪に手を染めるのは男性だというジェンダーによる思い込みではないのでしょうか。

編集者C そう言われてみれば、女性の犯人を描いたポスターは見たことがないです。そのせいかイメージもしにくいです。「オレオレ詐欺」も「ワタシワタシ詐欺」とは言わないですね。息子を装った犯人が母親である被害者に犯行を行うパターンが多いのでしようけれど、これもやっぱり犯人には男性が想定されています。

編集者Y なぜでしょうね。日々繰り返し目にしたり聞いたりしていると、違和感がなくなっていくようです。

編集者O 私も最近「あら？」と感じたことがありました。娘が書店で算数ドリルを選んだのですが、お化粧のコンパクトや口紅を数えさせる問題があったんです。さらにお姫様の挿絵がたくさん入っていて、そこに「女の子はおしゃれしなきゃね」とか「王子様のためにいっもおしゃれじゃないと♡」とコメントが入っていたりするんです。勉強してくればいいかと思いましたが、私はちよつと気になりました。「女の子はこういうもの」っていうメッセージが強すぎるように感じました。

編集者S 市販のドリルだと、そういう物の方が売れるということで作られているのかもしれないですね。学校の教育現場を見ていると、昔に比べて男女平等という点では変化が生まれています。例えば、教科書の挿絵とか。以前、理科の教科書の観察の様子、虫眼鏡を持つて観察するのは男子、横で記録するのは女子というように、男子は活動の主体、女子は補助的な役割で描かれることが多かったけれど、最近は性別によって描き分けるといったことは少なくなってきました。さまざまなメディアでジェンダーが偏らないような表現の方向に進むといいなと思います。

「それって本当？」という視点は、情報を深く読み解くきっかけになりそうです。情報との上手なつきあい方について、それがどのようにして作られているのかも合わせて考えながら、さらに掘り下げてみましょう。

メディアって どうなるの？

メディアとは、大辞林第三版によれば、「手段。方法。媒体。特に、新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体」とあります。情報がある人から別の人に伝達される時に、その手段としてメディアが間に存在することが多くなります。

例えば、手紙やCDなどもメディアです。最近では、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）など、新しい手段が生み出され、メディアは私達の生活のあらゆるところに存在しています。